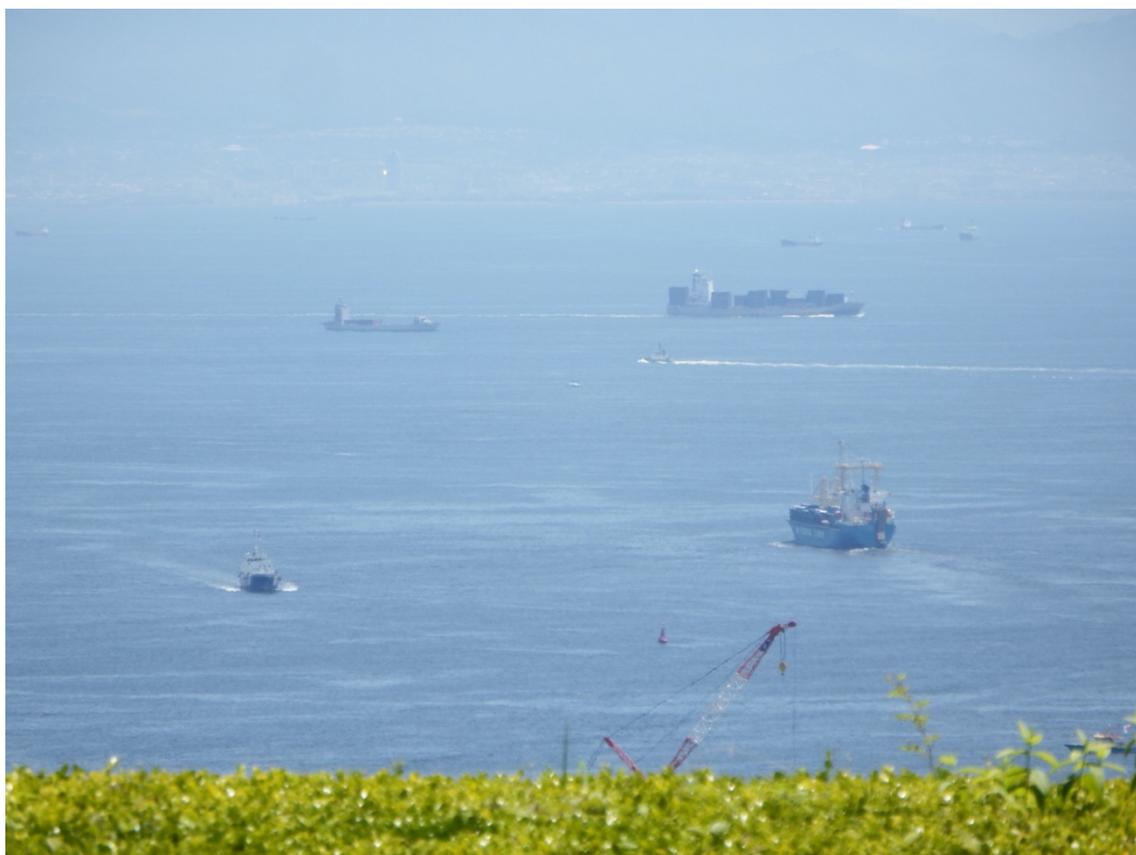


元に戻るの早い、早い。これほど早いとは思わなかった。

新型コロナウイルスの感染拡大で、緊急事態宣言により、社会活動が大幅に制限された。そのことにより、人の移動、交通量が大幅に減少したことで、環境が改善されたと指摘されている。

筆者の自宅から対岸の関西空港がみえるのだが、緊急事態宣言の期間中は、これまで経験したことがないほど、澄み渡って見えた。ところが、解除されたとたん、ガスがかすみだしたのだ。中国でもあっという間に大気汚染の数値がはねあがったと報告されている。



自宅からみえる関西空港方面の風景。緊急事態宣言の解除のとたん、ガスでくもりだした。

一方で、テレワークを経験した人たちは、自分たちが、不要不急の外出を控え、通勤をしなかったことで、自然環境の回復に驚き、米国では、ワークライフバランスともあいまって、テレワーク（リモートワーク）への社会整備が急速に進んでいるという。

自然との共存にめざめたかのような社会機運ととらえられなくない。日本では、そうした機運の話はまだ聞こえてこない。

自然災害に繰り返し襲われながら、こりもせず同じような被害を繰り返す日本人は、「忘れっぽい気質が歴史上醸成されてきた」とよくいわれるが、やはりコロナにいたってもそうなのだと、思わざるをえない。自分たちの生活を顧み、新しいライフスタイルを築こうとするのではなく、いち早く元の生活に戻ろうとするのである。阪神大震災の当日に「今夜の会食は予定通りでしょうか」というようなおバカなやりとりがあちこちあったといわれたのを思い出した。

「わかっちゃいるけどやめられない」とうたい、高度成長期をおう歌してきた現代日本人の気質は骨の髄までしみついているのだということか。

(令和2年5月)